

Urban Station and the Bricolage canyon with cultural functions ▲JR 田町駅三田口正面イメージパース

都心駅とブリコラージュ文化渓間 ~文化機能集積とガレリア空間による JR 田町駅三田口の再編~

都市デザイン研究室 CY13002_阿南 琢真 指導教員 前田 英寿 / 副査 谷口 大造

BACKGROUNDS

▲ガレリア (文化渓間) イメージパース

[都心鉄道駅の課題]

経済空間との複合施設化が定着、駅ソト・周辺経済の疲弊 周辺建築物の高密度配置による「駅表情」の埋没

<u>商業主義的にぎわい</u>にとどまる。まち・駅ソトに浸透すべき生活アクティビティの<u>内部完結</u>。

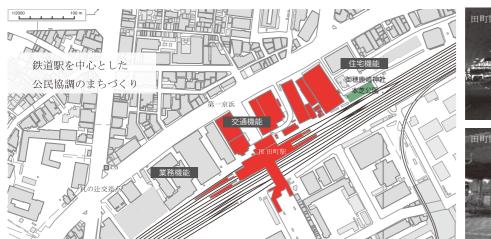
駅本来のもつ、まちづくりにおける中核的役割と立地上の優位性から考察するに、まちに ひらいた「発信地」としての駅直のあり方を再考すべきであると考える。

[国際都市に向けて躍進する都心駅]

近年の品川・田町駅周辺地域の都市状況は目紛しく変化している。国際競争力の一層 強化を担う地域として位置付けられて以来、快適な都市空間を形成することはもとより、 文化交流やビジネス支援といった公民協調を促進する都市機能の充実が求められる。

鉄駅本来のもつ交通拠点としての機能に加え、地域生活の一部を取り込んだある種の コミュニティ空間、生活情報サービス機能をもち合わせた公的施設空間を介在させ、 経済空間付加を主とした既存の都心駅開発概念から文化空間付加を取り入れた新たな 転換を目論む。

SITE







三田口改札外から第一京浜沿いに及ぶまでの駅前街区とする。鉄道路線に並行し、札の辻 交差点から浜松町駅方面へと連ねる街区並びの一端。周辺に数多くの学術機関を集積する上、 業務機能と住宅機能の間に挟まれた交通拠点であり、文化機能を介在させることに十分な 都市効果が期待できる。

DESIGN DIRECTION

▲田町セントラルタワー内図書館から駅構内を見る

鉄道駅と商業施設の複合化、まちの中に点在する文化施設

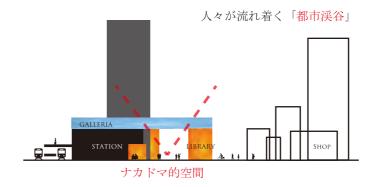
駅とまちの間を文化と交流の賑わいによって結び、

<従来>





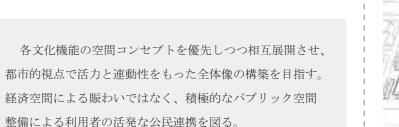
▲ガレリア地上部から JR 田町駅へのアプローチ



<計画>

鉄道駅と文化施設の複合化、商業空間をまちなかに落とし込む





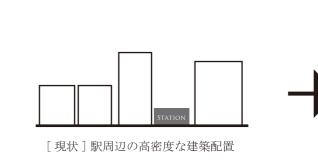


児童図書・託児所・交友ハウス

<u>まちなかオープンスペース整備</u>を位置づけ、併せて駅前建築物の規模縮小を図る。

敷地面積:19,656m²/法定容積率:700%/建蔽率:80% [現状]延べ床面積:111,650m²/容積率:568% [計画]延べ床面積:84,698m²/容積率 430%

鉄道駅直空間の本来あるべき姿 = "都市の余白"

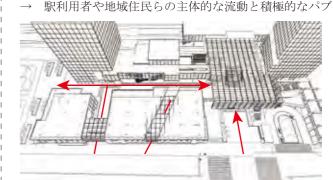


[計画]メリハリある建築ボリュームの両極分配

(低層部を駅舎と同等高さに揃える)

「動的にぎわい」の形成

→ 駅利用者や地域住民らの主体的な流動と積極的なパブリック空間整備による活発な公民連携を図る。



新設図書館を分棟配置。その背後、線路沿いに建てられた 文化建築の2つのボリュームがガレリア側面空間を形どる。 分棟された各図書館は3、4階レベルで接続される。

ガレリア空間に対し、垂直方向からの「抜け」を地上階部で 形成。浜松町駅方面からの人の流動をガレリア内部に取り込み、 鉄道路線に並行する形でパノラマ状に展開させる。

乗客・駅利用者の動線改善、歩行者滞留空間の拡充 立体的歩行者ネットワークの強化

地上階レベル : 駅広オープンスペース、公共交通乗換え場 改札階レベル : 第一京浜上ペデストリアンデッキ、ガレリア渓間

高層建築上階 : オフィス・ビジネスホテル

DESIGN & PLAN





「駅を跨ぐ文化機能」

▲駅を跨ぐ図書館空中歩路

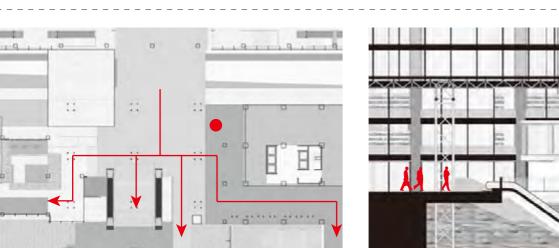
新設図書館は駅を跨ぐ分棟設計。駅階段の頭上に読書空間を配置した接続コンコースを 設置し、鉄道利用者が駅構内からまちの文化的側面を臨むことができる。高層ビル内部を 通過するペデストリアンデッキも同様の狙いをもつ。



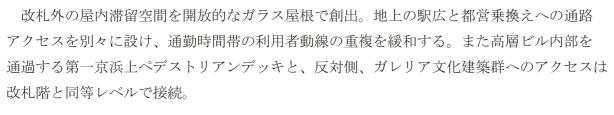


◀駅改札階から駅前広場を見下ろす

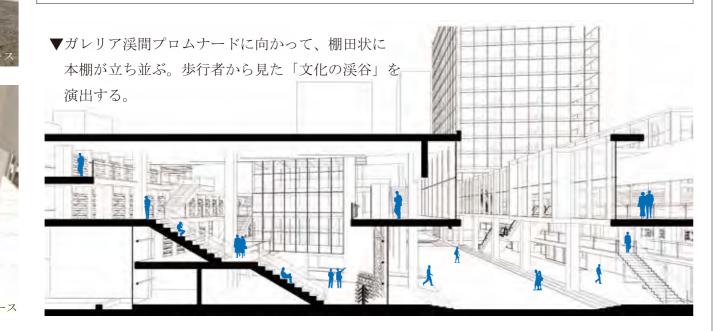
駅広右手に公共図書館が構え、歩行者が腰かけできる高さで生垣と水面が 張られる。植栽をその手前に配置することで、広場内部でもそれぞれの単位 空間ごとに色味をもたせる。

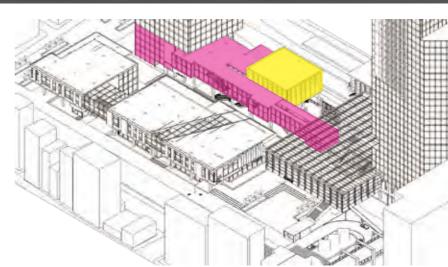






①駅前広場 ②第一京浜上ペデストリアンデッキ ③都営浅草線・都営三田線乗換え通路 ④ガレリア文化建築群





GALLERIA [C-SIDE]

1F_ 講堂、クラブ活動スペース、プロジェクト工房、ミーティングルーム

3F_ 田町駅直結コンコース、パブリックホール、オフィスエントランス



▲パブリックホール

ガレリアを囲むかたちで図書館と文化建築が東西に配置される一方、 南北方向は田町駅舎と既存の御穂鹿島神社をつなぐ。幅員 12mの 歩行者プロムナードの両脇に立つ文化施設はそれぞれ 3m近いセット バックを効かせ、ピーク時の都営三田線乗り換え動線と施設利用者の 動線交錯を防ぐ。(最上部左イメージパース)

▶文化建築「C-side」の浜松町駅方面は、地上階にガラス張りの講堂を 備えた情報メディアセンターから成る。エントランス脇には、背後を 走る鉄道路線へ視界のひらけたパブリックスペースが広がる。

地上階にプロジェクト工房やミーティングルームを備えたガレリア 文化建築「C-side」と路線の間には、南北に伸びた水面空間が介され、 「静」と「動」の空間を緩やかに結びつける。







ELEVATION

